

工場取締ニ於テ現行犯ヲ認メタルトキハ直ニ工場長ニ届出ヘシ  
第九十條 庶務科ハ職工ノ賞罰アル毎ニ其旨ヲ職工賞罰簿ニ記入スルモノトス

第八章 服 裝

第五十一條 職工就業中ハ洋服又ハ筒袖股引ヲ着用シ肩章ヲ付スヘシ

第五十二條 職場内ニ於テハ跣足トナリ又ハ木履ヲ使用ス可カラス

第五十三條 服裝亂雜ニ流レ又ハ不潔ニシテ風紀衛生ニ害アツト認ムルトキハ工事科員、工場取締、職工長助手ハ之ニ相當注意ヲ與ヘ猶肯セサルトキハ工場長ハ退場ヲ命スルコトアルモノトス

第九章 休日、喫飯

第五十四條 左ノ休日ハ休業ス

一 祭 日

二 日曜日

三 十二月三十日ヨリ翌年一月三日迄

前項各號ノ外臨時休業スルコトアルヘシ

第五十五條 工場長ハ必要ニ應シ前條ノ休日ニ職工ノ出場ヲ命スルコトアルヘシ

但シ毎月二回ハ休業セシムルモノトス

第五十六條 喫飯ハ會食所其他所定ノ場所ニ於テスヘシ

第十章 死 傷

第五十七條 工場長ハ職工ノ死傷疾病ノ爲メニ應急ノ準備トシテ擔架、消毒「ガーゼ」、及洗布等ノ必要品

ヲ備ヘ置カシムヘシ

第五十八條 死傷者アルトキハ工事科員又ハ職工長ハ之ニ應急ノ手當ヲナシ直ニ受診證ヲ付與シテ指定醫

師ニ送り猶死傷ノ原因時刻ヲ具シテ工場長ニ報告スヘシ

前項ノ場合ニ於テ醫師ノ出張ヲ要スルトキハ工事科員ハ直ニ其手續ヲナスヘシ

醫師ノ診察ヲ受ケタルトキハ工事科員又ハ職工長ハ之ヲ工場長ニ報告スヘシ

第五十九條 庶務科ハ死傷簿ヲ備ヘ前條ノ報告アリタルトキハ死傷者ノ姓名給額死傷ノ原因其狀況年月日

等ヲ記入シ猶死亡者アルトキハ警察署ニ届出ノ手續ヲナスヘシ

汽車部工場職工賃請仕事規則

明治廿八年四月廿二日  
連 第 八 號

鐵道作業局汽車部工場職工賃請仕事規則左ノ通相定ム

工場職工賃請仕事規則

第一條 汽車部工場長ハ部長ノ認可ヲ經テ工事ノ種別及加工單價ヲ定メ所屬職工ヲシテ賃請仕事ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ賃請仕事ヲ命セサレタル職工ハ以下規程スルモノ、外工場職工規則ヲ遵守スルモノトス

第二條 工場職工賃請仕事ヲ分テ單獨賃請仕事、連合賃請仕事ノ二種トス

單獨賃請仕事ヲ命シタル職工ニハ竣工シタル工事ノ員數ニ所定ノ單價ヲ乘シタル額ヲ計算シテ之ヲ支給ス

連合賃請仕事ヲ命シタル職工ニハ各自ノ日給額ト就業時間トニ依リ工事ノ所定ノ單價ヲ按分計算シテ之ヲ支給ス

第三條 賃請仕事ヲ命セラレタル職工カ不注意ノ爲工事ノ加工ヲ誤リタルトキハ該加工ニ對シテハ賃料ヲ支給セス

第四條 前條ノ場合ニ於テハ職工規則第四十八條所定ノ無給就業時間ニ相當スル日給金額ヲ工賃ヨリ控除スルコトアルヘシ連合賃請仕事ノ場合ニ在テ其責二人以上ニ歸スヘキトキハ各職工ノ日給額ニ比例シテ控除ス

第五條 單獨賃請仕事ヲ命セラレタル職工カ加工中ニ材料不良ニシテ加工ヲ爲スモ其用ヲ爲サハルコトヲ發見シテ之ヲ申告シ工場長ニ於テ其申告ヲ是認シタルトキハ一部分ノ加工ニ對シテモ猶全部ノ賃料ヲ支給スルコトアルモノトス

第六條 新ニ入職シタル職工ニハ入職後一箇月ヲ經過スルニアラサレハ單獨賃請仕事ヲ爲サシムルコトヲ得ス但連合賃請仕事ハ之ヲ爲サシムルコトヲ得ルト雖モ第二條第三項ニ依ラス普通ノ日給額ヲ支給スルモノトス

再入職ノモノ又ハ技術上特別ノ素養アルコトヲ工場長ニ於テ確認シタルモノハ前項ノ限ニアラズ

第七條 賃料ハ前月二十一日ヨリ當月五日迄及當月六日ヨリ二十日迄ノ兩度ニ計算シ一箇月二回之ヲ拂渡スモノトス

附 則

第八條 本規則ニ關スル帳簿ノ用式記帳ノ方法ハ鐵道作業局長官之ヲ定ム  
備人給料支給規程

第一條 備人ヲ分テ左ノ二種トシ以下定ムル所ニ依リ給料ヲ支給ス

甲 種	
器 械 番 種	橋 梁 錢 墜 道 番
踏 切 番	驛 夫 世 話 役
轉 轍 手	整 燈 集 配 手
警 手	貨 物 集 配 人
驛 夫	洋 食 料 理 人
炊 事 方	酒 食 料 理 番
食 堂 給 仕	列 車 給 仕
給 水 火 夫	火 夫 見 習
炭 水 夫	注 油 夫
檢 車 手	檢 車 助 手
電 車 練 習 生	合 圖 方
電 燈 檢 果 方	電 燈 檢 查 方 見 習
舵 夫	船 火 夫 見 習
水 夫	船 火 夫 見 習
船 夫	船 火 夫 見 習
船 役 夫	船 火 夫 見 習
監 守 番	船 火 夫 見 習
庫 番	船 火 夫 見 習

夜	乙	番	用	使
建築工夫長	線路工夫長	電氣工夫長		
建築工夫	線路工夫	電氣工夫		
測量工夫	定備坑夫	定備大工		
電	旋盤工	鍛冶工		
組立工	仕上工	製罐工		
鑄物工	模型工	電機工		
瓦斯工	銅工	木機工		
木挽工	塗工	縫工		
職工見習	職工手傳	工場道具番		
工場機關手	工場火夫	發電所機關手		
發電所機關手見習	電氣手	電氣手見習		
發電所火夫	發電所火夫見習	炭積機運轉助手		
水壓扛重機運轉助手	炭積機火夫	水壓扛重機火夫		
蒸汽扛重機火夫	石版職工	活版職工		
製本職工	定備人夫			

第二條 甲種備人ニハ勤務日數ニ應シ給料ヲ支給ス

第三條 乙種備人ニハ日給額ニ對スル勤務定時間ヲ以テ一人トシ勤務時間數ニ應シ人員ニ換算シテ給料ヲ支給ス但シ其換算ハ四拾五入ヲ以テ厘位ニ止ム

前項日給額ニ對スル勤務定時間ハ左ノ區別ニ依ル但シ第一號及第二號ノ者ノ定時間外勤務ニ對シテハ勤務一時間ヲ一步ノ割合ニテ又定時間ニ滿タサル勤務ニ對シテハ定時間ニ比例シテ人員ニ換算ス

- 一 保線並建築ニ從事スル備人
  - 自十一月至翌年二月 毎日 九時間
  - 自三月至四月 同 十時間
  - 自九月至十月 同 十時間
  - 自五月至八月 同 十一時間
- 二 墜道工事中坑内ニ從事スル備人 同 八時間
- 三 第一號及第二號以外ノ備人 同 十時間

工場職工ニ賃請仕事ヲ命シタル場合ハ前二項ヲ適用セス

第四條 乙種備人ノ定時間外勤務中午前五時前午後七時後(工場勤務者ハ午後六時後)ニ於テ勤務セシメタルトキハ該時間ニ對シ更ニ三割ヲ増加ス但シ發電所機關手、同見習、電氣手、同見習、發電所火夫、同見習及瓦斯工ハ晝夜ヲ論セス勤務十三時間以上ニ亘リタルトキニ限り其超過時間ニ對シ更ニ三割ヲ増加ス

線路工夫ヲシテ巡回夜勤ヲ爲サシムル場合ニハ前項ノ割増ヲ支給セス

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル日數ハ之ヲ勤務日數ニ算入ス但シ第四號第八號及第十號ノ場合ヲ除キ病

氣又ハ私事ノ故障ニテ當該日ノ前後引續キ欠勤シタルトキ及乙種備人ニ對スル第一號ノ休暇日ハ此限ニ  
アラス

- 一 休暇日但シ勤務ニ當番非番アルモノニ對シテハ之ヲ勤務日數ニ算入セス
  - 二 非番ノ日數
  - 三 父母ノ祭日
  - 四 父母ノ忌引五日以内ノ欠勤
  - 五 出張中ノ病氣欠勤
  - 六 職務ニ起因スル傷疾疾病中ノ欠勤
  - 七 傳染病者ノ爲交通遮斷又ハ隔離法施行中ノ欠勤
  - 八 徵兵検査又ハ簡閱點呼當日ノ欠勤
  - 九 水火災其他非常罹災ニ因ル三日以内ノ欠勤
  - 十 職務上ニ係ル事件ニ付證人參考人又ハ鑑定人トシテ裁判所ニ召喚セラレタル當日ノ欠勤
- 第六條 備人中勤務ニ當番非番アルモノニ對シ定員中欠員、出張又ハ欠勤ノ爲、若ハ臨時必要上非番ノモ  
ノヲ出勤セシメタルトキハ更ニ當日ノ日給ヲ加給ス
- 第七條 備人ノ増給及減給ハ總テ發布ノ當日ヨリ之ヲ計算ス轉勤轉職ノ場合ニ於ケル給料ノ計算亦同シ
- 第八條 備人解免ノ場合ニ於テハ發令ノ當日マテ其給料ヲ支給ス但シ解免後ト雖トモ其解免セラレタルコ  
トヲ知ラスシテ勤務シタルトキ若ハ一時必要上引續キ勤務セシメタルトキハ仍本給相當ノ額ヲ支給ス
- 第九條 備人ノ給料ハ前月十六日ヨリ當月十五日迄ヲ計算シ毎月一回之ヲ支給ス但シ工場勤務備人ノ給料

ハ適宜ノ期間ニ區分シ毎月一回又ハ二回ニ支給スルコトヲ得

解免又ハ死亡シタル場合ハ前項ノ規定ニ拘ハラス其際之ヲ支給ス

第十條 前各條ノ規定ハ試備人ニ之ヲ準用ス

附 則

本規程ハ明治四十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

鐵道院備人給額表

本院備人給額別表ノ通相定メ明治三十八年四月一日ヨリ施行ス

鐵道院備人給額表

職 名	日 給 額	職 名	日 給 額
器 械 番	金六拾錢以下	橋 梁 番	金五拾錢以下
墜 道 番	金五拾錢以下	踏 切 番	金六拾錢以下
驛 夫 世 話 役	金九拾錢以下	制 動 手	金七拾錢以下
轉 轍 手	金七拾錢以下	整 燈 手	金七拾錢以下
連 結 手	金七拾錢以下	警 手	金六拾錢以下
貨 物 集 配 人	金壹圓貳拾錢以下	貨 物 驛 夫	金八拾錢以下
驛 夫	金五拾錢以下	洋 食 料 理 人	金壹圓三拾錢以下
和 食 料 理 人	金七拾錢以下	炊 事 方	金五拾錢以下

酒番	金四拾錢以下	ホテル給仕	金七拾五錢以下
食堂給仕	金五拾五錢以下	列車給仕	金三拾五錢以下
給水機關手	金壹圓貳拾錢以下	給水夫	金七拾五錢以下
火夫見習	金五拾錢以下	機關夫	金五拾錢以下
炭水夫	金六拾錢以下	注油夫	金五拾錢以下
掃除夫	金五拾錢以下	檢車手	金壹圓貳拾錢以下
檢車助手	金五拾錢以下	電車檢査番	金壹圓以下
電車練習生	金五拾錢以下	合圖方	金五拾錢以下
諸品番	金七拾錢以下	電燈檢査方	金壹圓貳拾錢以下
電燈檢査方見習	金八拾錢以下	油差	金八拾錢以下
舵夫	金八拾錢以下	船舶火夫	金五拾五錢以下
船舶火夫見習	金四拾錢以下	水夫	金五拾五錢以下
火夫見習	金四拾錢以下	船匠	金壹圓貳拾錢以下
船舶役夫	金五拾錢以下	船夫	金壹圓以下
船舶給仕	金七拾錢以下	監守	金八拾錢以下
試驗夫	金壹圓以下	守衛	金六拾錢以下
庫番	金八拾錢以下	小使	金五拾錢以下
給仕	金三拾錢以下	夜番	金五拾錢以下

用使	金四拾錢以下	職名	日給額
建築工夫長	金壹圓貳拾錢以下	線路工夫長	金壹圓貳拾錢以下
電氣工夫長	金壹圓貳拾錢以下	建築工夫	金九拾錢以下
線路工夫	金七拾錢以下	電氣工夫	金壹圓以下
測量工夫	金壹圓以下	定備坑夫	金壹圓貳拾錢以下
定備大工	金壹圓以下	電冶	金壹圓五拾錢以下
旋盤工	金壹圓五拾錢以下	鍛冶	金壹圓五拾錢以下
組立工	金壹圓五拾錢以下	仕上	金壹圓五拾錢以下
製罐工	金壹圓五拾錢以下	鑄物	金壹圓五拾錢以下
模型工	金壹圓五拾錢以下	電機	金壹圓五拾錢以下
瓦斯工	金八拾錢以下	銅機	金壹圓五拾錢以下
木工	金壹圓五拾錢以下	木挽	金壹圓四拾錢以下
塗工	金壹圓四拾錢以下	縫工	金壹圓貳拾錢以下
職工見習	金六拾錢以下	職工手傳	金六拾錢以下
工場道具番	金九拾錢以下	工場機關手	金壹圓五拾錢以下
工場火夫	金壹圓以下	發電所機關手	金壹圓五拾錢以下

發電所機關手見習	金七拾錢以下	電氣手	金壹圓五拾錢以下
電氣手見習	金七拾錢以下	發電所火夫	金壹圓以下
發電所火夫見習	金五拾錢以下	炭積機運轉助手	金六拾錢以下
水壓扛重機助運轉手	金六拾錢以下	炭積機火夫	金壹圓以下
水壓扛重機火夫	金壹圓以下	蒸汽扛重機火夫	金壹圓以下
石版職工	金壹圓以下	活版職工	金壹圓以下
製本職工	金八拾錢以下	定備人夫	金七拾錢以下

一 札幌出張所々管ニ在リテハ本給額表ノ最高額ニ各十分ノ二ヲ増加ス  
 二本給額表中最高額ヲ受クルモノニシテ金七拾錢以上ニアリテハ滿五ケ年以上金七拾錢未滿ニアリテハ滿四ケ年以上勤續シ技能優等且ツ勤勉著シキ者ニハ漸次日給額ノ十分ノ二マテヲ増加スルコトヲ得

職工技術練習規程 明治四十二年四月十三日 達 第七〇號

職工技術練習規程左ノ通り定ム

職工技術練習規程

- 第一條 當院職工ヲ撰拔シテ東京高等工業學校ニ委托シ同校附屬工場ニ於テ技術ノ練習ヲナサシム
- 第二條 修業期間ハ滿一ケ年間トス
- 第三條 修業時間及休日ハ東京高等工業學校附屬工場ノ規定ニ依ル  
但同工場休業ノ際ニハ當院工場ニ於テ就業セシムルコトアルヘシ
- 第四條 志願者ハ左ノ條件ヲ具備シ所屬工場長ノ推薦スルモノタルヘシ

- 一 年齡ハ滿二十二歲以上四十歲以下ノモノ
  - 二 尋常小學校全科卒業以上ノ學力ヲ有スルモノ
  - 三 可成英語ノ素養アルモノ
  - 四 現ニ滿三年以上當院工場ニ勤續シ處罰ヲ受ケタルコトナキモノ
  - 五 品行方正、體格強健且永ク當院ニ勤續スルノ志望確固ニシテ技能發達ノ見込アルモノ
- 第五條 採用スヘキ職工ノ種類、人員並ニ時期ハ其都度別ニ通達ス
- 第六條 志願者ハ別ニ定ムル書式ニ依リ志願書及履歷書ヲ所屬管理局長ニ提出スヘシ
- 第七條 管理局長前條ノ書類ヲ受理シタルトキハ第四條ノ各條件ヲ具備スルヤ否ヤヲ寫査シ撰拔試験ヲナシ關係書類ヲ添付撰拔者ヲ總裁ニ具申スヘシ
- 第八條 撰拔試験ハ志願者カ第四條第二、第三、第五、ノ各條件ヲ具備シ且練習上必要ナル技能ヲ有スルヤ否ヤヲ檢定スルニ必要ナリト認ムル科目及程度ニ就キ之ヲ行フ  
但學科ノ問題ハ當院運輸部ヨリ關係管理局ニ送付ス
- 第九條 練習生ハ卒業後少クモ滿三ケ年間當院所屬工場ニ於テ就職ノ義務ヲ有ス
- 第十條 練習生ヲ命セラレタルモノハ保證人ヲ定メ別ニ定ムル書式ノ誓約書ヲ提出スベシ
- 第十一條 保證人ハ土地又ハ家屋ヲ所有シ若ハ直接國稅三圓以上ヲ納付シ練習生ノ當院ニ對シ負擔スル一切ノ義務ニ就キ保證ノ義務ヲ有スルモノトス
- 第十二條 保證人ハ其資格ヲ表示スルタメ所在地若ハ納稅地ノ市區町村長ノ證明書ヲ第十條ノ誓約書ニ添付スヘシ

第十三條 保證人改姓名轉居又ハ改印シタルトキハ直ニ其旨届出ヘシ

第十四條 保證人死亡若ハ第十一條ノ資格ヲ喪失シタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ別ニ定ムル書式ニヨリ届出ヘシ

第十五條 修業中ハ東京在勤ヲ命シ當院運輸部ニ於テ之ヲ監督シ第三條但書ノ場合ヲ除クノ外甲種備人ニ準シ日給ヲ支給ス

第十六條 欠席多ク成功ノ見込ナキモノ若ハ不都合ノ行爲アリタルモノハ練習ヲ差止ムヘシ

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ修業中支給セシ給料ノ全部若ハ一部ヲ返納セシムルコトアルヘシ

一 正當ノ理由ナク自己ノ都合ニヨリ練習ヲ中止シタルモノ

二 第九條ノ義務年限間ニ於テ當院ノ許可ヲ得スシテ志ニ退職シタルモノ若ハ不都合ノ行爲アリテ當院ヨリ退職ヲ命セラレタルモノ

三 第十六條ノ處分ヲ受ケタルモノ

鐵道院職工見習生規程

第壹章 總 則

第一條 鐵道院工場ニ職工見習生ヲ置ク事ヲ得

第二條 見習生ハ左ノ資格ヲ備フル者ノ内ヨリ採用ス

一 年齡十三年以上十七年未滿ナルコト

二 體格健全ニシテ將來發達ノ見込アルモノ

三 尋常小學校ノ教科ヲ修了シ若シクハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルコト

第三條 見習生ニハ採用後十日以内ニ別紙書式ノ誓約書ヲ差出サシム

第四條 見習生ヲ別ケテ鑄工、鍛冶工、旋盤工、仕上工、製罐工、組立工、銅工、模型工、木工及塗工ノ十種トス

第五條 見習生ノ修業年限ヲ四ケ年トス但最後ノ一ケ年ハ專ラ實修ヲ課ス

第六條 見習生ハ卒業後引續四ケ年間當局工場ノ業務ニ従事スヘキ義務アルモノトス

第七條 見習生ニハ相當ノ給料ヲ給ス

第八條 見習生ハ修業中ハ勿論第六條ノ義務年限中自己ノ都合ニ依リ退職スルコトヲ得ス

但工場長ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルモノハ此限ニ非ス

第九條 見習生實習及學術ノ成績不良ニシテ卒業ノ見込ナキト認ムルトキハ修業期限内ト雖モ之ヲ解備スルコトアルヘシ

第十條 工場長ハ監督上必要ト認ムルトキハ見習生ノ居所ヲ指定スルコトアルベシ

第十一條 本規程ニ別段ノ定メナキ事項ニ關シテハ工場職工規則ヲ適用ス

第二章 實 修

第十二條 工場長ハ各種見習生ノ爲メ所屬工場勤務ノ職員中ヨリ一名若シクハ數名ノ見習生指導者ヲ定メ實修ノ指導ヲナサシム

第十三條 實修ノ順序及其課程ハ工場長之ヲ定ム

第三章 學 術

第一節 總 則

第十四條 見習生ニハ實修ノ傍職工タルニ必須ナル學術ヲ併セ授ク

第十五條 工場長ハ所屬工場勤務ノ職員中一名若シクハ數名ヲ指定シ學術ノ教授ヲ擔當セシム

但必要ノ場合ニ於テハ長官ノ認可ヲ得テ職員以外ノ者ニ教授ヲ囑託スルコトヲ得

第二節 修學年限教科課程教授時間

第十六條 教科書ハ修身、國語、算術、理科、機械工具及製作材料機關車及諸車輛、圖書ノ七科目トス

第十七條 修業年限ハ三ケ年トス

第十八條 授業時間ハ每週十二時間以内トシ其ノ始終ノ時限ハ工場長隨時之ヲ定ム

第十九條 教課程ハ別表ニ依ル

第三節 學年、學期、休業

第二十條 學年ハ毎年四月一日及九月一日ノ兩度ニ始マリ各滿一年ヲ以テ終ハル

第二十一條 一學年ヲ前後二期ニ分ケ各六ケ月ヲ以テ一學期トス

第二十二條 休日ハ左ノ如シ

日曜日 大祭日

夏期休業 八月一日ヨリ同月末日マデ

冬期休業 十二月廿六日ヨリ翌年一月七日マデ

其他所屬工場一般職工休業日

第四節 入 學

第二十三條 入學ノ時期ハ每學年ノ始トス

但時宜ニ依リ臨時入學セシムルコトアルヘシ

第二十四條 見習生ニシテ二學年以上ノ學力アリト認ムル者アルトキハ試験ノ上相當學年ニ編入スルコトアルヘシ

第五節 試 驗

第二十五條 學期試験ハ每學期ノ終ハリニ於テ其學期中ニ履習セル科目ニ就キ之ヲ行フ

後期ノ學期試験ハ學年試験ヲ兼ス

第二十六條 試験ノ成績ハ點數ヲ以テ判定シ一科目一百ヲ以テ最高點トス

第二十七條 修身科ノ評點ハ平素ノ品行並勉否ニヨリ之ヲ認定ス

但筆記又ハ口述試験ヲ行フトキハ之ニ對シテ三十點以下 評點ヲ附スルコトヲ得此場合ニ於テ認定點

ノ最高點ハ其最高附點ヲ控除シタル殘餘トス

第二十八條 學年試験ノ成績ハ各學期試験ニ於ケル各科目ヲ平均シテ之ヲ定ムルモノナトス

第二十九條 學年試験ノ成績各科目ノ評點三十以上ニシテ全科目ノ評點平均五十以上ヲ得タル者ヲ合格トス

但一科目若シクハ二科目ノ評點三十ニ滿サルモ全科目ノ評點五十以上ニシテ實修ノ成績優等ナリト認

ムルトキハ特ニ合格ト見做スコトアルヘシ

第四章 卒 業

第三十條 最終ノ學年試験ニ合格シ且ツ實修ヲ了ヘタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

附 則

第三十一條 鐵道國有法ニ依リ買收シタル鐵道工場ヨリ引繼キタル見習生ニハ第二條第一號ヲ適用セス



第卅二條 前條ニ依リ引繼キタル見習生ノ修業年限ハ第五條ニ依ラス實修及學力ヲ證考シテ之ヲ定ム  
 第卅三條 本規定ハ明治三十九年十一月一日ヨリ施行ス

課程表

每週時數計	圖 畫	機關車及車輛	機械工具及製作材料	理 科	算 術	國 語	修 身	科 目	
								第一學年	第二學年
二	三	一	一	一	二	三	一	人道實踐ノ方法 工業者ノ心得	讀書作文習字
	自在畫	構造大意	製作材料ノ大意	運動力三體ノ大意	四則應用				
一二	四	一	一	一	二	二	一	同上	同上
	用器畫及具取圖	各部ノ解剖	工具ノ用法	同上及力ノ應用	同上及分數小數	同上	同上		
一二	五	一	一	一	一	二	一	同上	同上
	機械圖	同上	機械使用法一般	同上	同上及比例步合算	同上	同上		

大正元年九月廿四日印刷  
 大正元年九月廿八日發行

非賣品

東京高等商業學校

印刷者

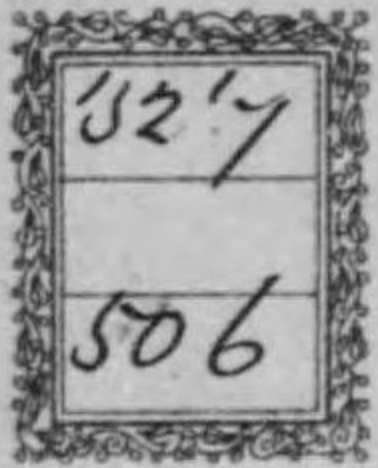
齋藤仙吉

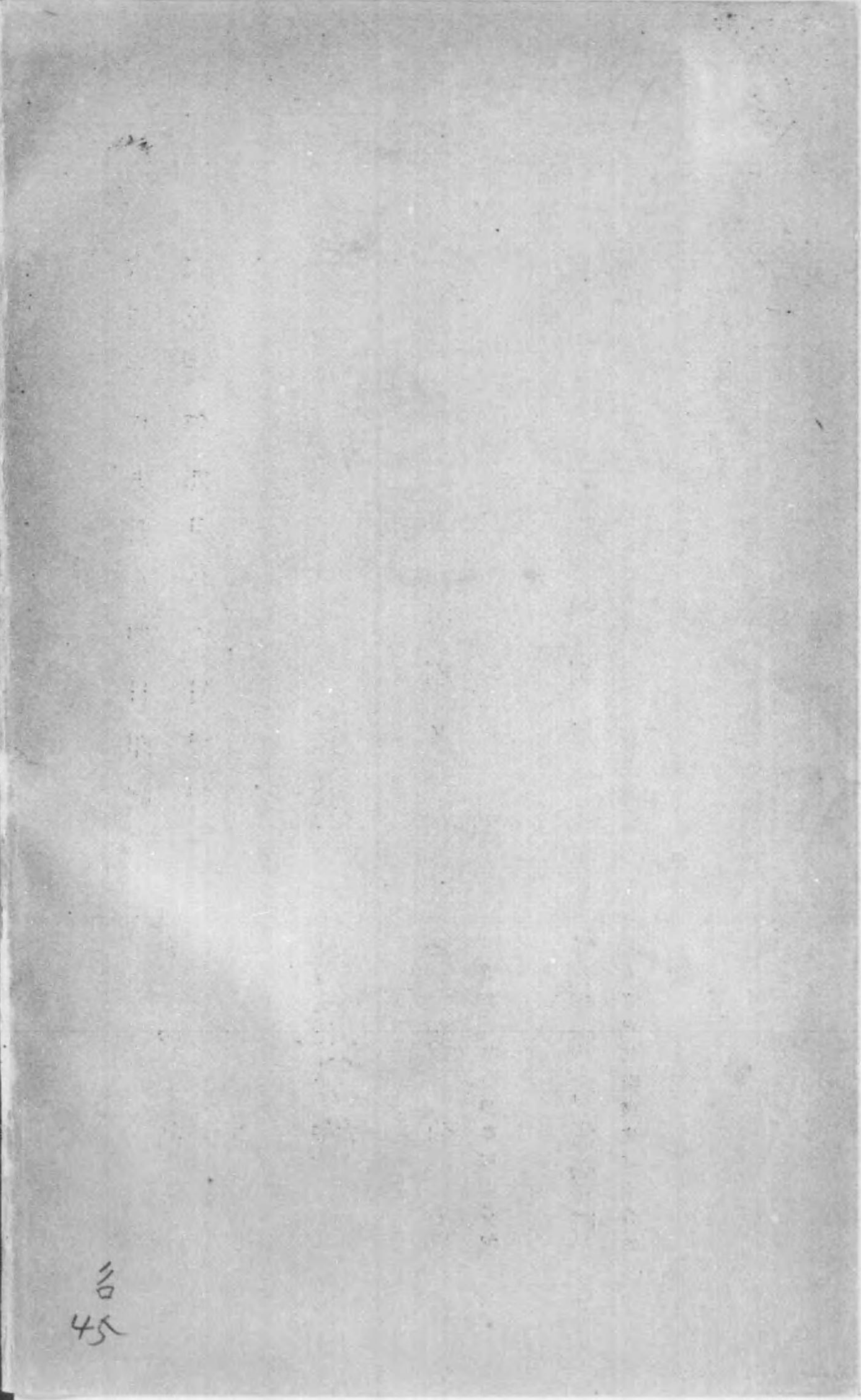
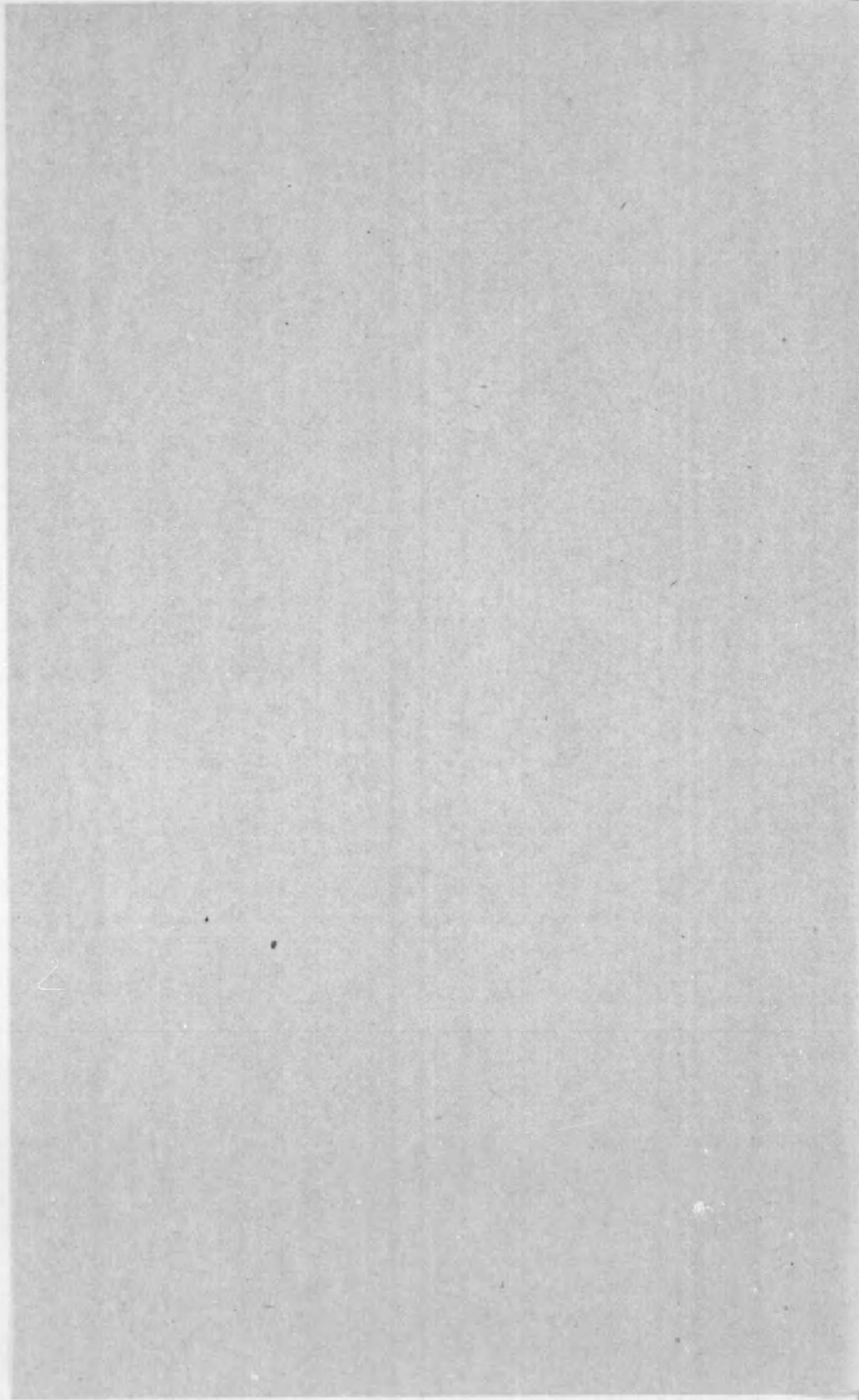
東京市芝新錢座町十番地

印刷所

近藤商店活版所

東京市芝新錢座町十番地





各  
45

327

506

終

